

政策整理番号	6	施策番号	3	評価シート(B) (施策評価: 施策を構成する事業の評価)			
対象年度	H18	作成部課室	警察本部 総務課	関係部課室	警察本部 交通指導課		

政策名	県民が安心して安全な生活を送るための環境づくり			政策番号	1 - 2 - 1		
-----	-------------------------	--	--	------	-----------	--	--

施策番号	3	施策名	事故のない安全で快適な交通社会の実現				
------	---	-----	--------------------	--	--	--	--

施策概要	交通事故から県民を守り、安全で快適な交通社会の実現を目指します。						
------	----------------------------------	--	--	--	--	--	--

政策評価指標 / 達成度	年間の交通事故死者数	A					

達成度:A(目標値を達成している), B(目標値を達成していないが、設定時の値から見て指標が目指す方向に推移している)
 C(目標値を達成しておらず、設定時の値からみて指標が目指す方向と逆方法に推移している) ... (現状値が把握できない等のため判定不能)

施策を構成する事業の分析

活動(事業) / 活動(事業)によりもたらされた結果					活動(事業)によりもたらされた成果							
事業番号	事業名 [担当課]	事業の対象 (誰・何を対象として)	事業の手段 (内容) (何をしたのか)	業績指標名 (単位) (事業の活動量、「事業の手段」に対応)	H16	H17	H18	事業の目的 (意図) (対象をどういう状態にしたのか)	成果指標名 (単位) (事業の成果、「事業の目的」に対応)	H16	H17	H18
					業績指標の値					成果指標の値		
					事業費 (決算(見込)額, 千円) 単位当たり事業費(千円)							
1	新たな違法駐車対策事業 [交通指導課]	放置車両、その使用者	放置車両の確認、放置違反金納付命令	放置車両確認標章取付件数(件)		87,030	77,469	19,244	駐車問題への意識の高まり、交通渋滞時間の減少	交通渋滞時間数(分)	1,060,952	853,535
2	[]											
3	[]											
4	[]											
5	[]											
事業費計(千円)						87,030	77,469					

政策評価指標分析カード(整理番号1)

政策整理番号

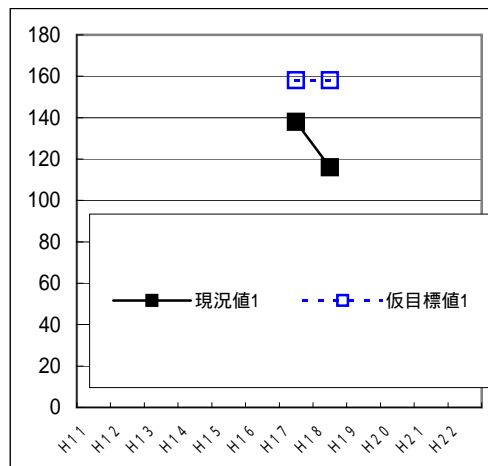
6

施策番号

3

対象年度	H18	作成部課室	警察本部 総務課	関係部課室	警察本部 交通企画課
政策名	県民が安心して安全な生活を送るための環境づくり			政策番号	1 - 2 - 1
施策番号	3	施策名	事故のない安全で快適な交通社会の実現		

政策評価指標		単位						
年間の交通事故死者数		人						
目標値	H17	158人以下	H22	158人以下				
評価年	初期値	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18
測定年	H17						H17	H18
現況値	138						138	116
仮目標値								158
達成度								A



達成度:A(目標値を達成している), B(目標値を達成していないが、設定時の値から見て指標が目指す方向に推移している)
 C(目標値を達成しておらず、設定時の値からみて指標が目指す方向と逆方法に推移している), ... (現状値が把握できない等のため判定不能)

政策評価指標の概要

宮城県内における年間の交通事故による死亡者数

政策評価指標の選定理由

・県内の交通情勢は、平成15年中は交通事故死者数が大幅に減少したものの、人身交通事故件数や負傷者数は増加傾向にあるなど依然として厳しい状況にある。さらに、過去の統計を見ると交通事故死者数は、隔年で増減を繰り返す傾向を示しており、予断を許さない状況である。
 ・宮城県知事を会長とする宮城県交通安全対策会議では、第7次宮城県交通安全計画を策定し、この中で交通事故死者数の抑制を目標として掲げているところである。同対策会議は、国の関係地方行政機関、県、市町村、関係機関・団体等が一体となり交通安全に関する各種施策を総合的に推進しており、県行政の斉一性を期す観点から、同計画における目標を指標とすることが妥当であると認められる。

達成状況の背景(未達成の場合はその理由等)・今後の見通し

・平成17年中は、第7次宮城県交通安全計画最終年度として、また、平成18年中は、第8次宮城県交通安全計画の初年度として、それぞれ自治体を始めとする交通安全関係機関・団体との連携による当該計画を機軸とした交通安全諸対策を推進した。特に目標達成の原因となったのは、「街頭指導、広報啓発等の強化により、四輪運転者(同乗者を含む。)のシートベルト着用率が向上し、事故発生時の衝撃が緩和されたこと。速度違反の取締り強化により、速度の抑制が図られ、事故直前速度が低下したこと。悪質・危険違反者に対する指導取締りの強化等により悪質・危険違反に係る交通事故が減少したこと。」等が考えられる。

政策評価指標の妥当性【施策の有効性を評価する上で適切な指標か】

・本指標については、第7次宮城県交通安全総合計画において目標数値として掲げているものと同一であるが、同計画と連動した施策推進を図る観点から、適切な指標と判断される。

